令和８年度　　国際情報高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・主体的に学ぶ生徒の育成
・自他の人格を尊重できる生徒の育成
・社会で活躍できる生徒の育成
・地域から信頼される学校づくり
・服務規律の徹底とワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の推進

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	教育方針や教育理念を共通理解し、保護者や地域にわかりやすく伝えている。	A		
	校務分掌の設定・分担が適正化され、学年との連携が有機的に機能している。	B		
2　学習指導	基礎・基本の定着を目指し、工夫した授業を心がけている。	A		
	自宅での学習習慣の確立に向けた指導を適切に行っている。	A		
3　生徒指導	生徒のモラルの向上、自律心の育成を図り、より良い学習環境の維持・向上に努めている。	A		
	保護者との連携を強化し、いじめ問題を含む問題行動への対処およびその防止に対して適切な指導をすすめている。	A		
4　進路指導	継続的な進路指導の下、進路希望達成のための学力をつけることに努めている。	A		
	目的意識を高める指導を行い、適切な進路情報の提供に努めている。	A		
5　特別活動等	生徒会行事や部活動の活性化に努め、そのための環境整備を行っている。	A		
	生徒指導・進路指導・人権教育・総合的な探究の時間等を関連づけ、地域と連携しながら効果的に指導している。	A		
6　学校図書館	授業等で活用しやすいように環境を整え、居心地の良い図書館づくりに努めている。	A		
	広報活動などを通じ、図書館の利用や読書意欲を高める取組に努めている。	A		
7　保健・安全指導	定期健康診断や日常の生活指導の下に生徒が自ら健康管理を行い、基本的な生活習慣が定着するよう努めている。	A		
	避難訓練や登下校中の交通安全指導により、生徒の防災意識や安全意識の向上を図っている。	A		
8　人権教育	誰もが「かけがえのない存在である」という認識の定着を図っている。	A		
	同和問題・国際理解・異文化理解をはじめとした様々な人権問題について正しい理解と認識を培っている。	A		
9　環境教育	身近な問題だけでなく地域や世界など広い視野からも関心を抱くよう、環境に配慮した生き方や価値観の定着を図っている。	A		
	日常の清掃活動、ゴミの分別・減量およびリサイクルなどの環境整備実践活動に努めている。	A		
10　事務・管理	ICT機器を有効に活用し、事務の合理化と効率化を図っている。	A		
	施設・設備の安全管理に努め、定期的な点検と修繕を進めている。	A		
11　その他 学校の取組	学校運営協議会やPTA活動等の進展に努め、広く校外に情報を発信し地域との連携を図っている。	A		
	授業等を中心に、相手の立場も尊重した生徒のコミュニケーション能力や英語力の向上を図っている。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はＡ、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はＢ、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はＣ、達成できていない場合（達成度40%未満）はＤとする。

学校のＵＲＬ：https://www.kokujo-h.shiga-ec.ed.jp/